



|             |                 |             |                |                       |                 |                  |       |              |
|-------------|-----------------|-------------|----------------|-----------------------|-----------------|------------------|-------|--------------|
| トップメッセージ    | NTTグループの概要      | NTTグループのCSR | 人と社会のコミュニケーション | <b>人と地球のコミュニケーション</b> | 安心・安全なコミュニケーション | チームNTTのコミュニケーション | ガバナンス | GRIスタンダード対照表 |
| 地球環境に対する考え方 | <b>環境マネジメント</b> | 環境負荷の全体像    | 社会が低炭素化している未来へ | 資源が循環している未来へ          | 自然と共生している未来へ    |                  |       |              |

## 環境会計

NTTグループは、環境保全への取り組みを効率的かつ効果的に推進するために、2000年度から環境会計を導入し、事業活動における環境保全のためのコストと、その活動によって得られた環境保全の効果（経済的効果と物量効果）の定量的な把握を行っています。

2017年度は、費用では通信機器・設備の適正処理およびリサイクルなどの資源循環コストが減少したものの、有害物処理量増加による公害防止コストの増加量が大きく、2016年度と比較して増加しました。投資では主に非効率設備更改数減により減少となりました。経済的効果は、撤去通信設備のリユースにともなう費用削減の増加により、2016年度に比較し増加しました。

環境活動の定量的な把握、分析によって、活動の効率を把握し、課題を明確化し、またそれらの共有化を行うことで、引き続き、効率的・効果的な環境経営の実施をめざします。

| 区分           | 環境投資(億円) |        | 環境費用(億円) |        | 経済的効果(億円)                 |        | 物量効果(万t) |                               |       |       |
|--------------|----------|--------|----------|--------|---------------------------|--------|----------|-------------------------------|-------|-------|
|              | 2016年度   | 2017年度 | 2016年度   | 2017年度 | 2016年度                    | 2017年度 | 2016年度   | 2017年度                        |       |       |
| (1) 事業エリアコスト | 90.9     | 69.7   | 188.2    | 197.5  |                           |        |          |                               |       |       |
| ・公害防止コスト     | 3.6      | 0.7    | 41.9     | 62.2   |                           |        |          |                               |       |       |
| ・地球環境保全コスト   | 86.3     | 67.8   | 34.2     | 32.0   | 省エネによる費用削減                | 97.2   | 88.6     | 省エネ施策によるCO <sub>2</sub> 排出削減量 | 48.2  | 30.5  |
| ・資源循環コスト     | 1.0      | 1.2    | 112.1    | 103.3  | リサイクルにより得られた収入額(撤去通信設備等)  | 68.7   | 65.7     | 撤去通信設備リサイクル量                  | 24.0  | 22.0  |
|              |          |        |          |        | リサイクルにともなう廃棄物処理費用削減額      | 2.7    | 1.5      | 建築廃棄物リサイクル量                   | 17.5  | 13.3  |
|              |          |        |          |        | 撤去通信設備のリユースによる費用削減        | 271.6  | 383.0    | 土木廃棄物リサイクル量                   | 14.0  | 12.9  |
|              |          |        |          |        | 通信機器のリユースによる費用削減          | 118.1  | 110.6    | オフィス廃棄物リサイクル量                 | 3.6   | 3.3   |
|              |          |        |          |        | オフィス廃棄物のリユースによる費用削減       | 0.0    | 0.1      | その他リサイクル量                     | 1.0   | 0.8   |
| (2) 上・下流コスト  | 0.9      | 0.8    | 110.3    | 106.8  | リサイクルにより得られた収入額(加入者通信機器等) | 5.7    | 4.9      | お客さま通信機器などの回収量(万个)            | 977.1 | 856.0 |
|              |          |        |          |        | 電子化にともなう郵送料削減額            | 155.7  | 149.1    |                               |       |       |
| (3) 管理活動コスト  | 0.7      | 0.8    | 46.2     | 46.5   |                           |        |          |                               |       |       |
| (4) 研究開発コスト  | 22.9     | 25.9   | 78.3     | 79.3   |                           |        |          |                               |       |       |
| (5) 社会活動コスト  | 0.0      | 0.0    | 0.6      | 0.4    |                           |        |          |                               |       |       |
| (6) 環境損傷コスト  | 0.0      | 0.0    | 0.0      | 0.0    |                           |        |          |                               |       |       |
| 合計           | 115.4    | 97.3   | 423.6    | 430.5  | 合計                        | 719.7  | 803.4    |                               |       |       |

### ● 集計対象範囲

NTT、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモおよびそれらのグループ会社(計130社)の環境会計データを集計しています。

### ● 集計対象期間

- ・ 2017年度分のデータは、2017年4月1日～2018年3月31日
- ・ 2016年度分のデータは、2016年4月1日～2017年3月31日

### ● 集計方法

- ・ NTTグループ環境会計ガイドラインに基づいて集計しました。このガイドラインは、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠しています。
- ・ 環境保全コストは、環境投資と環境費用に分けて集計しました。環境費用には人件費、および減価償却費を含んでいます。
- ・ 省エネ施策によるCO<sub>2</sub>排出削減量は、施策を行わなかった場合の予測排出値(成り行き値)との差分から算出しています。